

国土強靱化への 着実な歩み

大規模災害等に備えて



H24.2.1 豪雪による立往生の状況 (国道279号むつ市～野辺地町)

高規格道路

下北半島縦貫道路



 青森県

高規格道路 下北半島縦貫道路 計画概要図



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)及び数値地図50mメッシュ(標高)を使用した。(承認番号 平25情使、第817号)



下北半島縦貫道路 (LII約70km)

- むつ南BP L=8.7km
- 奥内BP (事業中) L=11.0km
- 横浜北BP (事業中) L=10.4km
- 横浜南BP L=7.0km
- 吹越BP L=5.8km
- 有戸北BP L=6.3km
- 有戸BP L=6.3km
- 野辺地BP L=6.9km
- 野辺地七戸道路 (事業中) L=7.1km ※国施工

凡例		
高規格幹線道路	供用中	
	基本計画	
	並行路線供用中*	
地域高規格道路	供用中	
	事業中	
その他の道路	有料道路	
	直轄国道	
	補助国道	
	県道・その他	

*並行路線とは高速自動車国道に並行する一般国道自動車専用道路(A'等)

下北半島縦貫道路の担う使命—1

人命を守ることを何よりも最優先に

「想定外」への確実な備え

■ 明日にでも起こるかもしれない「想定外」への備え

想定外の気象変化や大規模地震等の発生により、下北半島の海岸部を縦断する両国道(国道279号、国道338号)は通行止めになる可能性があるという脆弱性を有しています。さらに、両国道の同時通行止めは下北半島部の「孤立化」を意味し、救援復旧活動に大きな不安をもたらします。尊い人命を守るためにも、こういった「想定外」への対応も確実に求められています。

**国道279号は19時間半もの間
延長約39キロにわたり通行止め**

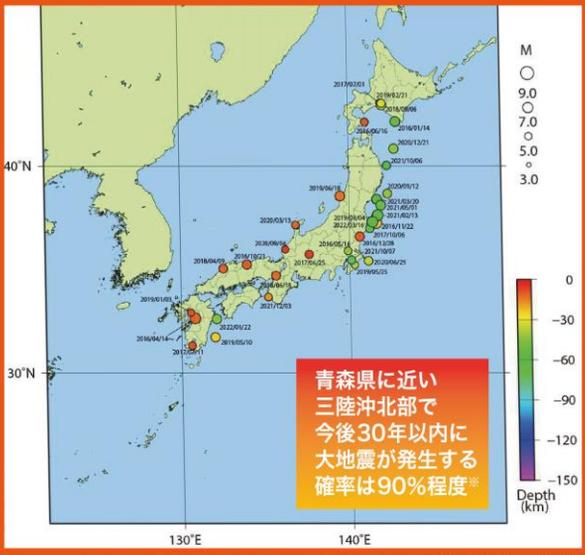
**国道338号は
東日本大震災時の津波で
道路が寸断**



▲ 道路を越えて押し寄せる津波
(国道338号：三沢市四川目地内)
三沢市提供

▲ 豪雪による通行止めで立ち往生する
車両(国道279号：むつ市赤川地内)
東奥日報社提供(紙面掲載日 平成24年2月2日)

◀ 日本付近で発生した主な被害地震の
震央分布(平成28年以降)
出典：気象庁



※ 地震発生確率算定基準日は2014年1月1日、想定地震規模はM7.1～M7.6(M7以上は大地震、M8以上は巨大地震とされる)、地震種類は海溝型の繰り返しは発生しないタイプで、文部科学省地震調査委員会が予測発表したもの。

大雨 下北800人孤立



県自衛隊に派遣要請 七戸は氾濫



**令和3年8月の大雨災害により
国道279号：小赤川橋が崩落、通行不能に
風間浦村下風呂地区、桑畑地区、
むつ市大畑町赤川地区の800名以上が孤立**



▲ 崩落した小赤川橋(国道279号：むつ市大畑町赤川村地内)

◀ 東奥日報社提供
(紙面掲載日 令和3年8月11日)

「国道279号冬期交通障害予測システム」を運用開始

平成24年12月から運用を開始した「冬期交通障害予測システム」は、視程障害の発生予測を「注意レベル」、「警戒レベル」の2段階に設定するとともに、「24時間先予測」を採用しています。人命の保護を最優先に考え、維持管理業者や関係市町村への迅速な注意喚起を促すとともに、監視体制、除排雪体制の早期対応を図ることを目的としています。

冬期交通障害予測情報イメージ ▶



下北半島縦貫道路の担う使命—2 強靱な社会基盤整備への取り組み

「国土防災」「災害に強い東北」を支援する道路ネットワーク

「災害に強い国土づくり」への着実な歩み

東日本大震災において、津波の被害を受けなかった内陸部の国道279号及び道の駅「よこはま」は、太平洋沿岸被災地の救援復旧活動に大きな役割を果たしました。「災害に強い東北」の実現は勿論のこと、昨今、甚大な被害予測が報告されている首都圏直下型地震等への対応など、日本の「国土防災」を見据えた迅速な復旧復興に資することのできる強靱な社会基盤整備を進めていくことが必要不可欠です。

東日本大震災時に 岩手県・宮城県に支援物資を供給



陸上自衛隊派遣部隊が 支援物資を陸送

東日本大震災を受け、陸上自衛隊派遣部隊が、米海軍の軍艦に搭乗し、むつ市の海上自衛隊大湊基地に到着。派遣部隊の隊員約280人、トラックやタンクローリーなど車両約100両が陸路で岩手県などの被災地に向かった。



道の駅「よこはま」は 救援復旧活動の中継拠点に!

八戸港は津波 により被災

概略計画PIプロジェクト(平成22~23年度実施)について

むつ市~横浜町 L=約21km 区間の概略計画について、地域住民や道路利用者と十分にコミュニケーションを図ることが重要となることから、PI(パブリックインボルブメント)*を導入し検討を進めました。検討にあたっては、「地域懇談会(4回)」や「アンケート・ヒアリング」により地域住民や道路利用者、企業や団体等から様々な意見を伺い、「自動車専用道路による全線バイパス案」に決定しました。

また、以下の課題への対応が必要と位置付けられました。

防災面への配慮
(緊急輸送道路としての機能確保等)

**道の駅「よこはま」と
インターチェンジとの連携**

**下北半島縦貫道路における
休憩機能の確保**

*PI(パブリックインボルブメント)とは
計画策定過程において、情報公開や意見聴取など関係する住民・利用者と十分にコミュニケーションを図る仕組みのことで、『市民参画』とも呼ばれています。

道の駅よこはまエリア地方創生拠点形成事業

下北半島縦貫道路横浜インターチェンジと直結する道の駅よこはま周辺エリアを、「産業振興」、「地域福祉」、「防災」の機能を有する地方創生拠点として整備し、交流人口の拡大や少子高齢化に対応した安全・安心な地域づくり、地域防災力の向上や広域的な復旧復興に資する強靱な社会基盤の実現を目指しています。

- ・H28.1.28 重点「道の駅」に選定(県内初)
- ・R7.5.14 防災「道の駅」に選定(県内二例目)

下北半島縦貫道路横浜インターチェンジに直結
道の駅よこはまエリア全景



下北半島縦貫道路は、下北地方生活圏の中心都市「むつ市」と東北縦貫自動車道八戸線を結び、下北・南部・青森地方生活圏の地域間連携強化、下北地方の産業等の発展を支援する高規格道路*1として新広域道路交通計画*2に基づき整備しています。

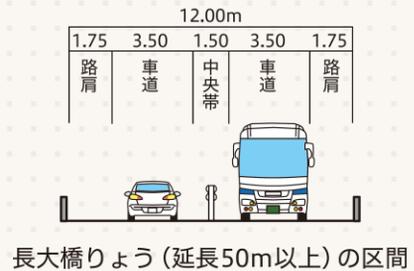
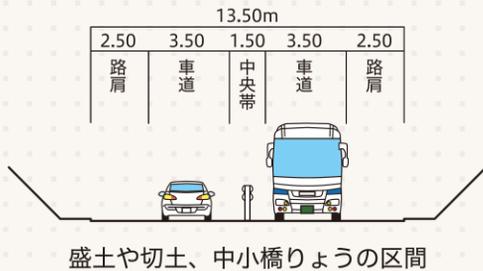
区間及び延長

起 点：青森県むつ市
終 点：青森県上北郡七戸町
延 長：約70キロメートル

道路規格

道路の種類：自動車専用道路
道路車線数：4車線及び2車線
道路の区分：第1種第2級及び第1種第3級
設計速度：100km/h及び80km/h

標準的な箇所の道路の断面図



下北半島縦貫道路の基本的役割

I 地域間連携の強化

高速ネットワークの形成により、県内各地方生活圏及び県外地域との交流の活性化や広域交流拠点である青森・三沢両空港、平成22年度に開業した東北新幹線七戸十和田駅へのアクセス強化を図ります。

II 産業・観光分野の発展を支援

大都市市場等との移動性の向上により、産業立地の促進を図るとともに、地場産業の高付加価値産業への転換の可能性が広がります。
また恐山や仏ヶ浦など観光資源が豊富な下北地域へのアクセス向上及び他地域の観光地との広域観光ルートの形成により、より多くの観光時間を生み出すことが可能になるなど、県内の観光分野の発展への寄与が期待されます。

III 救急医療ネットワークの向上

高度医療施設が整備されている青森市、八戸市への連絡強化により、救急患者の輸送及び輸血用血液輸送の「大幅な時間短縮」や「救急患者の安静搬送」などが可能となり、下北地域の安全性が高まります。

IV 国家エネルギープロジェクトを支援

下北地域は原子力発電所や原子燃料サイクル施設等のエネルギー施設が集積する地域であり、高速交通ネットワークの整備により、これらの開発拠点へのアクセス機能を強化します。



※1 高規格道路とは

人流・物流の円滑化や活性化によって我が国の経済活動を支えるとともに、激甚化、頻発化、広域化する災害からの迅速な復旧・復興を図るため、主要な都市や重要な空港・港湾を連結するなど、高速自動車国道を含め、これと一体となって機能する、もしくはこれらを補完して機能する広域的な道路ネットワークを構成する道路。

また、地域の実情や将来像（概ね20～30年後）に照らした事業の重要性・緊急性や、地域の活性化や大都市圏の機能向上等の施策との関連性が高く、十分な効果が期待できる道路で、求められるサービス速度が概ね60km/h以上の道路。

※2 新広域道路交通計画とは

本計画は、概ね20～30年間の中長期的な視点で検討を行い、地域の将来像を踏まえた広域的な道路交通の今後の方向性を示す「青森県新広域道路交通ビジョン」に基づき、平常時・災害時を問わない物流・人流の確保や活性化を図り、今後の計画的な道路整備及び管理、道路交通マネジメント等を実行するため策定するものである。

地域交流促進のための将来目標

- 県都青森市と地方生活圏中心都市間の連絡時間
- 地方生活圏中心都市と圏域内市町村間の連絡時間
- 高規格道路ICへの到達時間

概ね1時間を目標とします

下北半島縦貫道路の事業経緯と整備目標

延長：L ≒ 70 km 起点：青森県むつ市～終点：青森県上北郡七戸町

工 区	むつ南 バイパス L=8.7km	奥内 バイパス L=11.0km	横浜北 バイパス L=10.4km	横浜南 バイパス L=7km	吹越 バイパス L=5.8km	有戸北 バイパス L=6.3km	有戸 バイパス L=6.3km	野辺地 バイパス L=6.9km	野辺地 七戸道路 L=7.1km	
広域道路整備 基本計画策定	地域構造を強化し、各種地域活性化施策等を支援するために必要な広域的な幹線道路網整備に関する「青森県広域道路整備基本計画」の策定（平成5年12月）									
路線指定	候補路線	「青森県広域道路整備基本計画」において、高い交流機能を発揮する道路として位置づけられた広域道路（交流促進型）の中から、地域高規格道路の候補路線指定（平成6年12月16日）								
	計画路線	平成6年12月16日 概略延長 L = 60km								
区間指定	調査区間	H11.12.17 概略延長10km				H10.12.18 概略延長6km	H7.8.23 概略延長5km	改築事業中であることから、調査区間指定はなし		
	整備区間	H15.9.26 L=9km むつ市田名部～奥内	R4.3.29 L=11km むつ市奥内～中野沢	H28.4.1 L=10km むつ市中野沢～横浜町横浜	H25.5.16 L=7km 横浜町横浜～吹越	H21.3.13 L=6km 横浜町～六ヶ所村	H11.12.17 L=6km 六ヶ所村～野辺地町	H7.4.28 L=12km 野辺地町向田～一ノ渡		R4.3.29 L=7km 野辺地町一ノ渡～七戸町後平
整備開始 （令和4年度 全線事業化）	平成15年度 （事業化）	令和4年度 （事業化）	平成28年度 （事業化）	平成25年度 （事業化）	平成20年度 （事業化）	平成12年度 （着工準備） 平成13年度 （事業化）	平成7年度 （H5～）	平成7年度 （S60～）	令和4年度 （事業化）	
供 用	R8.3.14 （L=5.3km） 部分供用 むつ尻屋崎IC～むつ東通IC R1.12.23 （L=1.3km） むつIC～むつ尻屋崎IC R5.3.25 （L=2.1km）	事業中	事業中 部分供用 横浜IC～横浜吹越IC R8.3.14 （L=1.5km）	R8.3.14 （L=7km）	H29.11.15 （L=5.8km）	H24.11.13 （L=6.3km）	H16.11.26 （L=6.3km）	H16.11.26 （L=2.8km） H17.12.2 （L=4.1km）	事業中	
当面の目標		整備促進	整備促進						整備促進	

● 供用中（整備済み） ● 事業中

青森県 県土整備部 道路課

〒030-8570 青森市長島一丁目1番1号 TEL: 017-722-1111（代表） FAX: 017-734-8189
ホームページアドレス：http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kendo/doro/

青森県 道路課

検索



青森県 上北県土整備事務所 高規格道路建設課

〒034-0093 十和田市西十二番町20番12号 TEL: 0176-22-8111（代表） FAX: 0176-23-4391

青森県 下北県土整備事務所 道路施設・高規格道路建設課

〒035-0073 むつ市中央一丁目1番8号 TEL: 0175-22-8581（代表） FAX: 0175-22-9540